様式1

大学等名	中村学園大学短期大学部
プログラム名	中村学園大学短期大学部 数理・データサイエンス・AI教育 リテラシーレベルプログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

プログラムを構成する「データサイエンス入門」2単位を修得すること。

必要最低科目数・単位数　1 科目　2 単位　履修必須の有無　令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス入門	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス入門	4-1統計および数理基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
（1）現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット（1回目） ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化（1回目） ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会（1回目） ・複数技術を組み合わせたAIサービス（1回目） ・人間の知的活動とAIの関係性（1回目） ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方（1回目）
	1-6	・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)（3回目） ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など（3回目）
（2）「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど（2回目） ・1次データ、2次データ、データのメタ化（2回目） ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など）（2回目） ・データ作成(ビッグデータとアノテーション）（2回目） ・データのオープン化(オープンデータ)（2回目）
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)（3回目） ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど（3回目） ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など（3回目）
（3）様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析:予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など（3回目） ・データ可視化:複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など（5回目） ・非構造化データ処理:言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など（2回目） ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ(・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)（3回目） ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど（3回目） ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など（3回目） ・認識技術、ルールベース、自動化技術（3回目）
	1-5	・データ解析:予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など（3回目） ・データ可視化:複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など（5回目） ・非構造化データ処理:言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など（2回目） ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ(・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)（3回目） ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど（3回目） ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など（3回目） ・認識技術、ルールベース、自動化技術（3回目）

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)(15回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト(15回目) ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護(15回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)(15回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス(15回目) ・AIサービスの責任論(15回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介(15回目)
	3-2	・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性(15回目) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取(15回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介(15回目)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)(5回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)(5回目、6回目、8回目、10回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)(6回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)(8回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い(10回目) ・打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ(10回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)(11回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)(2回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列(11回目、12回目) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)(12回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)(5回目) ・データの図表表現(チャート化)・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)(5回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)(12回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)(5回目)
	2-3	・データの集計(和、平均)・データの並び替え、ランキング(第5回) ・データ解析ツール(スプレッドシート)(4回目) ・表形式のデータ(csv)(7回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

・データサイエンスを学ぶ意義を説明できる。 ・データの表現方法と種類について説明できる。 ・身の回りのデータについて、グラフや表を利用して整理できる。 ・身の回りのデータについて、特徴を表現し説明できる。 ・データを取り扱う扱う上での留意点について説明できる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容　※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、**「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」**(2024年2月　数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
「データサイエンス入門」において、本プログラムを学ぶ目的となにを修得するかを課題としたものを、生成AIでどのような回答が得られるかを実際にデモンストレーションを行った。生成AIの出力結果が授業内容との乖離を示すとともに、実際の内容に適合したものを出力するためのプロンプトとして何を入力すればよいかを示した。また、生成AIで課題を作成する際の問題点についても説明した。

様式2

中村学園大学短期大学部

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度　令和4　年度

②大学等全体の男女別学生数　男性 103 人　女性 749 人　（ 合計 852 人 ）

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
食物栄養学科	176	80	160	23	18	4	4									27	17%
キャリア開発学科	284	120	240	86	82	23	21									109	45%
幼児保育学科	392	190	380	59	55	14	14									73	19%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合　計	852	390	780	168	155	41	39	0	0	0	0	0	0	0	0	209	27%

様式3

大学等名 中村学園大学短期大学部

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数　（常勤） 44 人（非常勤） 36 人

② プログラムの授業を教えている教員数 1 人

③ プログラムの運営責任者

（責任者名）山本　朋弘　（役職名）情報教育センター長

④ プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）

情報教育委員会

（責任者名）山本　朋弘　（役職名）情報教育委員長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

情報教育委員会細則

⑥ 体制の目的

情報教育及び教育の情報化について、教育内容や指導の充実、質の維持・向上を図ることを目的とし、審議するための委員会として、情報教育委員会を設置している。本委員会では情報教育及び教育の情報化における全学的な指針、開講授業科目および教員の配当に関する事項等について審議を行う。

⑦ 具体的な構成員

情報教育センター長（兼メディアセンター長） 山本　朋弘
栄養科学部　栄養科学科　准教授　中藤　哲也
栄養科学部　フード・マネジメント学科　講師　木村　俊輔
教育学部　児童幼児教育学科　講師　野口　太輔
流通科学部　流通科学科　講師　坂本　健成
短期大学部　食物栄養学科　准教授　長光　博史
短期大学部　キャリア開発学科　准教授　宮本　和典
短期大学部　幼児保育学科　准教授　橋本　弘治
教務委員長　前田　卓雄
学術情報部　課長　馬場　丈晴
教務部　部長　塚元　富一郎
その他委員会が必要と認めた者

※本委員会は令和6年度に設置された委員会であり、申請前年度までは情報教育検討ワーキンググループとして活動し、プログラムの策定、改善等を行った。

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	27%	令和6年度予定	51%	令和7年度予定	75%
令和8年度予定	85%	令和9年度予定	100%	収容定員（名）	780

具体的な計画

令和5年度から開講数を増やしたため、履修者数を増やすことができた。今後も該当授業の開講数を増やし、さらに受講しやすい環境を整備する。現時点では未定であるが、いずれは履修必須とすることも検討を進めていく。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

データサイエンス入門はすべての学部生が受講できるよう、短大合同の教養科目として開講している。また、多くの学生が受講できるよう、前学期に1コマ、後学期に1コマと時間割を分けて開講している。多様なメディアを使用したオンデマンド方式で開講しているので、教室の定員に制限されることなく受講可能となる。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

入学後の新入生オリエンテーションの際に、データサイエンスを学ぶ必要性を説明し、履修を促している。また時間割上は、特定の曜日時限に配置されるが、オンデマンド方式により学習可能なことをシラバス等で周知することにより、履修の幅を広げている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本プログラムに係る授業のビデオはLMSに蓄積し、授業が終了した後でも、各回の授業内容を繰り返し視聴できる環境を整備している。授業ビデオは開講中いつでも視聴できるが、LMSの確認テストの実施時期は授業資料公開から1週間としている。これにより、学習を先延ばしせずに着実に履修・修得できるようにしている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

LMSのコミュニケーション機能により担当教員が迅速に対応できるようにしている。オフィスアワーは週の複数時間に設定することにより、学生が個別に質問できる体制を整えている。

様式4

大学等名　中村学園大学短期大学部

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

情報教育委員会

（責任者名）山本　朋弘　　（役職名）情報教育委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	教務情報システムにより、教務部ならびにプログラム実施者がプログラムの履修・修得状況を確認できるようにしている。プログラムを開設した令和4年度は、開講数が1コマと少なかったため、履修者数が年間41名に留まったが、令和5年度は開講数を2コマに増やすことにより、履修数が年間168名と増加した。そのうち155名が単位を修得し、単位修得率は92%となった。
学修成果	本プログラムでは、LMSにほぼ毎回確認テストを設定しており、学生自身が学修成果を確認できるようになっている。また最終成績、アンケートの結果に基づき、情報教育委員会でコンテンツの見直しを行うこととしている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	学生による授業アンケート『私はこの授業の到達目標とする能力を身に付けることができた。』の項目にて、「とてもそう思う」「そう思う」が90%、「あまり思わない」「全く思わない」が3%の回答を得た。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	学生による授業アンケート『私は総合的にこの授業を次のように評価する。』の項目において、「非常に良い」「良い」が84%、「少し改善してほしい」「改善してほしい」が7%の回答を得た。 自由記述では、動画が何度も視聴可能であること、視聴時間の制約がないこと、スライドだけでなく画面操作を含めた動画であるため理解しやすい、音声が聞き取りやすかったという肯定的な意見がほとんどであった。また履修した学年と学部とで相違があるが、他の授業科目の復習になった、これまで修得しなかった新たな知見が得られた等の意見が多かったため、学生への推奨度は高いと考えられる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	現在は教養科目の選択科目としているため、開講数を増やしているものの、他の教養科目との兼ね合いがあり、全員が履修できる状況ではない。今後は教養科目だけでなく専門科目のカリキュラム改定を視野に入れ、それに付随して、数理・データサイエンス・AI教育全体のカリキュラムの策定を進めていけるよう検討する。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは2年目であることと、リテラシーレベルであるため、修了者の進路先での活躍状況、企業等での評価は得られていない。本学では毎年、卒業生と就職先にアンケートを実施している。今後、本プログラムの成果を評価する項目を追加することを検討する。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学では、社会人を対象とした「食MBAリカレント講座」を開講している。本講座のアドバンストコースでは、「フードビジネスのためのDX推進戦略」を提供しており、本プログラムと重複している内容もある。講座受講者に対するアンケートでは、数理・データサイエンス・AIの素養を身につけることができたという回答もあり、また今後大学で修得すべきであるという意見がある。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	受講者の関心分野を題材にすることにより、学ぶ楽しさを理解するように努めている。たとえば、「コサイン類似度」の説明では、小麦粉を材料とする食品を題材にして、実際に似ていると感じる食品と数学的に求めた値が一致することを確認するようにしている。また機械学習では、学内で販売しているパンを識別するといった話題を取り入れることにより、学ぶ楽しさを感じられるようにしている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	全学科生を対象にした通常の対面授業においては、分野ごとの異なる内容を講義することに困難がある。しかしながらオンデマンド授業の特性を活かすことにより、具体的な事例については、同一カリキュラムの中で学部ごとに最適化することが可能である。現時点では、題材はすべて同じであるが、対象分野ごとに題材を用意することによって、わかりやすい授業とすることが可能であると考えている。

科目名	データサイエンス入門		
担当教員　*は授業担当補助者	井上　仁		
開講年次	1年	開講期	2023年度後学期
単位	2単位	科目ナンバリング	LA11031-020
テーマ(ねらい)及び到達目標	【位置づけ】 　本科目は、全学部の「教養科目」「自然科学」に位置づけられる。 【テーマ】 　現代社会において、大量のデータ(ビッグデータ)の収集・蓄積・分析により、社会的問題の解決や新たな価値の創造が期待されている。そのために、数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能が重要と考えられており、文理を問わず、すべての大学が初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得できるようにすることが目標とされている。 　本科目では、データサイエンスの基礎的な事項を修得することを目標としている。 【到達目標】 * データサイエンスを学ぶ意義を説明できる。 * コンピュータの基本的な仕組みとネットワークについて説明できる。 * データの表現方法と種類について説明できる。 * 身の回りのデータについて、グラフや表を利用して整理できる。 * 身の回りのデータについて、特徴を表現し説明できる。 * データを取り扱う扱う上での留意点について説明できる。		
DPとの対応	「卒業認定・学位授与と当該科目の関連」欄にあるリンクから所属学科のDPを確認してください。		
教職課程における位置づけ			
授業概要	本授業では、数理・データサイエンス・AIの基礎レベルとして、以下の三つの内容の基本事項を修得することを目標とする。 * 社会におけるデータ・AIの利活用 * データリテラシー * データ・AI利活用における留意事項 授業はオンデマンド形式によって動画ビデオを視聴することにより実施する。 ※あらかじめ決められた期間内であれば、授業時間割の曜日・時限でなくてもよい。 動画ビデオの視聴方法と視聴期間は、UNIPAの毎回の授業資料に掲載する。 なお、授業時間割の曜日・時限には、教室において対面で質疑応答の時間とするが、必ずしも教室に来る必要はない。		
授業形態	遠隔授業（全て遠隔）		
授業ルーブリック		課題ルーブリック	
第1回	社会で起きている変化 社会で活用されているデータ		
第2回	データ・AIの活用 データ・AIの活用領域と利活用のための技術		
第3回	データ・AI利活用の現場 データ・AI利活用の最新動向		
第4回	Excelの基本的な操作方法		
第5回	時系列データの可視化		
第6回	平均の算出とその可視化		
第7回	標準偏差の算出とその可視化		
第8回	大量のデータを扱う方法		
第9回	基本統計量の算出と箱ひげ図		
第10回	度数分布表とヒストグラムの作成		
第11回	散布図の作成と相関係数の算出		
第12回	定性データの扱い方とクロス集計		

第13回	データサイエンスのための基本的な数学 (1)		
第14回	データサイエンスのための基本的な数学 (2)		
第15回	データ・AIを取り扱う上での留意事項 データを守る上での留意事項		
試験実施について	実施なし		
再試験有無	再試験なし		
評価方法	【成績評価】 100点満点で60点以上を単位認定の要件とする。 (1) 毎回あるいは単元ごとに提示する課題: 80点 (40点以上を単位認定の要件とする) (2) 期末課題: 20点 (10点以上を単位認定の要件とする) (1)(2)とも半分以上の点を獲得することを単位認定の要件とする。たとえば、毎回の課題70点、期末課題5点の場合、合計は75点であるが、期末課題の点数が半分未満のため、単位は認定されない。 【再試験】 毎回あるいは単元ごとの課題と期末課題により評価するため再試験は実施しない。		
課題に対するフィードバック	次回の授業の冒頭に、前回の課題についてコメントする。		
教科書使用有無	使用する		
教科書①(名称、備考)	AIデータサイエンスリテラシー入門		
教科書②(名称、備考)			
教科書③(名称、備考)			
教科書④(名称、備考)			
教科書⑤(名称、備考)			
教科書⑥(名称、備考)			
参考書			
事前学習	該当する回の教科書を熟読してくこと。	事前学習（時間）	講義科目(2単位)：2時間
事後学習	* 毎回の課題をこなして提出すること。 * 授業ビデオは開講期間中公開するので、不明な点は再視聴して確認すること。	事後学習（時間）	講義科目(2単位)：2時間
その他	* オンデマンドのため、毎回の課題提出により出席とみなす。 * 開講日のうち、何回かを対面またはオンラインでのオフィス・アワー(質疑応答)とする。日程は授業開始時に通知する。		
卒業認定・学位授与の方針と科目の関連			

年次別開講科目表

学則の別表にもとづく各年次別の開講科目表は次のとおりです。

授業科目及び単位数（2023年度以降入学生に適用）

23F

系列		授業科目	単位数 必修	選択	自由	授業方法	開講年次 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	卒業の条件	免許・資格単位 栄養士	F・S	備考
基礎分野	教養基礎科目	大学基礎演習	1			演	○				必修科目及び各分野の指定単位数のほか、基礎分野及び専門分野の選択科目からさらに3単位以上修得			
		入門情報処理・実習		1		講実	○							
		健康とスポーツ		1		演	○							
		セミナー		2		演			○	○				※1
		哲学		2		講		○		○				
		文学		2		講	○		○					
		歴史学		2		講		○		○				
		ボランティア論		2		講		○		○				
		社会学		2		講		○		○				
		心理学		2		講	○	○	○	○				
		法学		2		講	○		○					
		生物学		2		講		○		○				
		数理科学		2		講		○		○				
		情報科学		2		講	○		○					
		データサイエンス入門		2		講	○	○	○	○				
		芸術の世界		2		講		○		○				
		色彩の科学		2		講		○		○				
		世界の教育		2		講		○		○				
		国際文化論		2		講	○		○					
		コミュニケーション論		2		講	○		○					
		世界の食と文化		2		講		○		○				
		博多の食と文化		1		講	○		○					四半期科目
		中村学		1		講	○		○					四半期科目
		教養講座（小論文）		1		演		○						
		教養講座（英語）		1		演	○							
	英語科目	英語（基礎）	1			演	○				必修科目1単位及び選択科目から1単位以上修得			
		英語コミュニケーション入門		1		演	○							
		英語コミュニケーション		1		演		○						
		英語（TOEIC）		1		演				＊				
		英語・海外研修		2		演	○	○	○	○				集中講義
		実用栄養英語		1		演			○					
専門分野	健康と社会生活	環境衛生学		2		講			○		必修科目22単位及び選択科目から30単位以上修得（次頁へ続く）	2		
		保健福祉概論		2		講				○		2		
	人体の構造と機能	生理学		2		講		○				2		
		解剖学		2		講	○					2		
		基礎生化学		2		講	○					2		
		運動生理学		1		講				○		1		四半期科目（前半）
		病理学		1		講				○		1		四半期科目（後半）
		解剖生理学実験		1		実				○		1		
	食品と衛生	食品学	2			講	○					2	2	
		食品材料学	2			講		○				2	2	
		食品衛生学	2			講		○				2	2	
		食品学基礎実験		1		実		○				1		
		食品学実験		1		実			○			1	1	
		食品加工学実習		1		実			○				1	
		食品衛生学実験		1		実				○		1		
	健康栄養と	基礎栄養学	2			講	○					2	2	
		応用栄養学		2		講		○				2		

（注）F・S：フードスペシャリスト
＊：認定科目
※1　履修する場合、前学期又は後学期のいずれかを選択

—29—

年次別開講科目表

学則の別表にもとづく各年次別の開講科目表は次のとおりです。

授業科目及び単位数（2022年度以前入学生に適用）

22 F

系列		授業科目	単位数 必修	選択	自由	授業方法	開講年次 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	卒業の条件	免許・資格単位 栄養士	F・S	備考
基礎分野	教養基礎科目	大学基礎演習	1			演	○				必修科目1単位及び選択科目から4単位以上修得			
		入門情報処理・実習		1		講実	○							
		健康とスポーツ		1		演	○							
		セミナー		2		演			○	○				※1
		哲学		2		講		○		○				
		文学		2		講	○		○					
		歴史学		2		講		○		○				
		ボランティア論		2		講		○		○				
		社会学		2		講		○		○				
		心理学		2		講	○	○	○	○				
		法学		2		講	○		○					
		生物学		2		講		○		○				
		数学		2		講		○		○				
		情報科学		2		講	○		○					
		データサイエンス入門		2		講	○		○	○				
		芸術の世界		2		講		○		○				
		色彩の科学		2		講		○		○				
		世界の教育		2		講		○		○				
		国際文化論		2		講	○		○					
		コミュニケーション論		2		講	○		○					
		世界の食と文化		2		講		○		○				
		博多の食と文化		1		講	○		○					四半期科目
		中村学		1		講	○		○					四半期科目
		教養講座（小論文）		1		演		○						
		教養講座（英語）		1		演	○							
	英語科目	英語（基礎）	1			演	○				必修科目1単位及び選択科目から1単位以上修得			
		英語コミュニケーション入門		1		演	○							
		英語コミュニケーション		1		演		○						
		英語（TOEIC）		1		演				*				
		英語・海外研修		2		演	○	○	○	○				集中講義
		実用栄養英語		1		演			○					
専門分野	健康と社会生活	環境衛生学		2		講			○		必修科目22単位及び選択科目から30単位以上修得（次頁へ続く）	2		
		保健福祉概論		2		講				○		2		
	人体の構造と機能	生理学		2		講		○				2		
		解剖学		2		講	○					2		
		基礎生化学		2		講	○					2		
		運動生理学		1		講				○		1		四半期科目（前半）
		病理学		1		講				○		1		四半期科目（後半）
		解剖生理学実験		1		実				○		1		
	食品と衛生	食品学	2			講	○					2	2	
		食品材料学	2			講		○				2	2	
		食品衛生学	2			講		○				2	2	
		食品学基礎実験		1		実		○				1		
		食品学実験		1		実			○			1	1	
		食品加工学実習		1		実			○				1	
		食品衛生学実験		1		実				○		1		
	健康栄養と	基礎栄養学	2			講	○					2	2	
		応用栄養学		2		講		○				2		

（注）F・S：フードスペシャリスト
＊：認定科目
※1　履修する場合、前学期又は後学期のいずれかを選択

年次別開講科目表

授業科目及び単位数（2023年度以降入学生に適用）

23H

系列	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業方法	開講年次 1年次 前	開講年次 1年次 後	開講年次 2年次 前	開講年次 2年次 後	卒業の条件	備考
基盤分野	大学基礎演習	1		演	○				1	四半期科目（前半）週2回開講 四半期科目（後半）週2回開講
	日本経済概論	2		講		○			2	
	簿記論Ⅰ	2		講	○				2	
	簿記論Ⅱ	2		講	○				2	
	情報処理A	2		演	○				2	
	情報処理B	2		演	○				2	
	英語Ⅰ	1		演	○				1	
	オフィスマネジメント	1		演	○				1	
	キャリア形成演習Ⅰ	1		演	○				1	
	キャリア形成演習Ⅱ	1		演		○			1	
	キャリア形成演習Ⅲ	1		演			○		1	
	キャリア形成演習Ⅳ	1		演				○	1	
	ゼミナールⅠ	1		演		○			1	
	ゼミナールⅡ	1		演			○		1	
	ゼミナールⅢ	1		演				○	1	
教養分野※	哲学		2	講		○		○	8単位以上修得	
	心理学		2	講	○	○	○	○		
	芸術の世界		2	講		○		○		
	法学		2	講	○		○			
	生物学		2	講		○		○		
	情報科学		2	講	○		○			
	データサイエンス入門		2	講	○	○	○			
	数理科学		2	講		○		○		
	色彩の科学		2	講		○		○		
	文学		2	講	○		○			
	歴史学		2	講		○		○		
	ボランティア論		2	講		○		○		
	社会学		2	講		○		○		
	国際文化論		2	講	○		○			
	世界の教育		2	講		○		○		
	中村学		1	講	○		○			
	教養講座（小論文）		1	演		○		○		
	教養講座（英語）		1	演	○		○			
	博多の食と文化		1	講	○		○			
	世界の食と文化		2	講		○		○		
	健康・スポーツ科学演習		1	演	○					
	生涯スポーツ実習		1	実		○				
家政分野	カラーコーディネート		1	演			○		8単位以上修得	
	健康と栄養		2	講	○					
	食育と調理		2	講・実		○				
	インテリアコーディネート		2	講				○		
	生活環境論		2	講		○				
	育児と看護		2	講				○		
	介護の基本		2	講			○			
	キャリアとワークライフバランス		2	講				○		
	生活経済論		2	講		○				
	生活福祉論		2	講		○				

卒業の条件：〔教養分野～フィールドワーク分野及びその他〕の全体から14単位以上修得（次ページへ続く）

※大学開講の教養科目を単位互換科目として履修可能（P.51参照）

年次別開講科目表

授業科目及び単位数（2022年度以降入学生に適用）

22H

系列	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業方法	開講年次 1年次 前	開講年次 1年次 後	開講年次 2年次 前	開講年次 2年次 後	卒業の条件	備考
基盤分野	大学基礎演習	1		演	○				1	
	時事教養	2		講		○			2	
	簿記論Ⅰ	2		講	○				2	四半期科目（前半）週2回開講
	簿記論Ⅱ	2		講	○				2	四半期科目（前半）週2回開講
	コンピューター基礎演習A		1	演	○				1	選択必修
	文書作成演習		1	演		○			1	両方受講可
	コンピューター基礎演習B		1	演	○				1	選択必修
	データ活用演習		1	演		○			1	両方受講可
	英語Ⅰ	1		演	○				1	
	オフィスマネジメント	1		演	○				1	
	キャリア形成演習Ⅰ	1		演	○				1	
	キャリア形成演習Ⅱ	1		演		○			1	
	キャリア形成演習Ⅲ	1		演			○		1	
	キャリア形成演習Ⅳ	1		演				○	1	
	ゼミナールⅠ	1		演		○			1	
	ゼミナールⅡ	1		演			○		1	
	ゼミナールⅢ	1		演				○	1	
	プロジェクト実践	2		演	○	○			2	
教養分野※	哲学		2	講		○		○	8単位以上修得	
	心理学		2	講	○	○	○	○		
	芸術の世界		2	講		○		○		
	法学		2	講	○		○			
	生物学		2	講		○		○		
	情報科学		2	講	○		○			
	データサイエンス入門		2	講	○		○	○		
	数学		2	講		○		○		
	色彩の科学		2	講		○		○		
	文学		2	講	○		○			
	歴史学		2	講		○		○		
	ボランティア論		2	講		○		○		
	社会学		2	講		○		○		
	国際文化論		2	講	○		○			
	世界の教育		2	講		○		○		
	中村学		1	講	○		○			
	教養講座（小論文）		1	演		○				
	教養講座（英語）		1	演	○					
	博多の食と文化		1	講	○		○			
	世界の食と文化		2	講		○		○		
	健康・スポーツ科学演習		1	演	○					
	生涯スポーツ実習		1	演		○				
家政分野	カラーコーディネート		1	演			○		10単位以上修得	
	健康と栄養		2	講	○					
	食育と調理		2	講・実		○				
	インテリアコーディネート		2	講				○		
	生活環境論		2	講				○		
	生活経営論		2	講				○		
	消費生活論		2	講				○		
	育児と看護		2	講				○		
	介護の基本		2	講			○			
	キャリアとワークライフバランス		2	講				○		
	生活福祉論		2	講			○			

さらに（基礎分野～フィールドワーク分野及びその他）の全体から12単位以上修得（次ページへ続く）

※大学開講の教養科目を単位互換科目として履修可能（P.51参照）

年次別開講科目表

授業科目及び単位数（2023年度以降入学生に適用）

23C

系列	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業方法	開講年次 1年次 前	開講年次 1年次 後	開講年次 2年次 前	開講年次 2年次 後	卒業の条件	免許・資格単位 幼二種	免許・資格単位 保育士 必修	免許・資格単位 保育士 選択	備考
基盤分野	情報処理A	1		演	○				必修科目及び選択科目から35単位以上修得（次頁へ続く）	1			○保育士資格取得希望者はAのいずれか1科目以上、Bから6単位以上修得してください。 ○幼稚園教諭二種免許状取得希望者は、アのいずれか1科目以上、イから6単位以上を修得してください。
	情報処理B		1	演		○				1			
	英語コミュニケーションA	1		演	○					1			
	人権教育	2		講			○			2	2		
	日本国憲法		2	講		○				2			
	健康・スポーツ科学A	1		講・実	○					1	1		
	健康・スポーツ科学B		1	講・実		○				1	1		
	幼児保育基礎セミナー	1		演	○								
	幼児保育演習	2		演			○						
教養分野	哲学		2	講		○	○		6単位以上修得			6単位以上修得	四半期科目
	文学		2	講	○		○						四半期科目
	歴史学		2	講		○		○					
	ボランティア論		2	講		○		○					
	社会学		2	講		○	○						
	心理学		2	講	○	○	○	○					
	法学		2	講	○		○						
	生物学		2	講		○		○					
	数理科学		2	講		○		○					
	情報科学		2	講	○		○						
	データサイエンス入門		2	講	○	○	○	○					
	芸術の世界		2	講		○		○					
	色彩の科学		2	講		○		○					
	世界の教育		2	講		○		○					
	国際文化論		2	講	○		○						
	コミュニケーション論		2	講	○		○						
	世界の食と文化		2	講		○		○					
	博多の食と文化		1	講	○		○						
	中村学		1	講	○		○						
	教養講座（小論文）		1	講		○							
	教養講座（英語）		1	講	○								
	英語コミュニケーションB		1	演		○			1単位以上修得		1単位以上修得		
	英会話		1	演			○						
	海外研修		2	演	○	○	○	○					
保育基礎分野	教職入門	2		講	○					2	2		
	教育課程総論		2	講	○					2	2		
	保育原理A		2	講	○						2		
	教育原理	2		講	○					2	2		
	保育内容総論		1	演		○					1		
	教育方法学	2		講		○				2			
	発達心理学A	2		講	○					ア	2		
	子ども家庭福祉	2		講	○						2		
	基礎器楽1	1		演	○								
	基礎声楽1	1		演	○								
	造形基礎	1		演	○								

年次別開講科目表

授業科目及び単位数（2022年度以前入学生に適用）

22C

系列	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	授業方法	開講年次 1年次 前	開講年次 1年次 後	開講年次 2年次 前	開講年次 2年次 後	卒業の条件	免許・資格単位 幼二種	免許・資格単位 保育士 必修	免許・資格単位 保育士 選択	備考
基盤分野	情報処理A	1		演	○				必修科目及び選択科目から36単位以上修得（次頁へ続く）	1			○保育士資格取得希望者はAのいずれか1科目以上、Bから6単位以上修得してください。 ○幼稚園教諭二種免許状取得希望者は、アのいずれか1科目以上、イから4単位以上を修得してください。
	情報処理B		1	演		○				1			
	英語コミュニケーションA	1		演	○					1			
	人権教育	2		講	○					2	2		
	日本国憲法		2	講		○				2			
	健康・スポーツ科学A	1		講・実	○					1	1		
	健康・スポーツ科学B		1	講・実		○				1	1		
	幼児保育基礎セミナー	1		演	○								
	幼児保育演習	2		演			○						
教養分野	哲学		2	講		○		○	6単位以上修得			6単位以上修得	四半期科目
	文学		2	講	○		○						四半期科目
	歴史学		2	講		○		○					
	ボランティア論		2	講		○		○					
	社会学		2	講		○		○					
	心理学		2	講	○	○	○	○					
	法学		2	講	○		○						
	生物学		2	講		○		○					
	数学		2	講		○		○					
	情報科学		2	講	○		○						
	データサイエンス入門		2	講	○		○	○					
	芸術の世界		2	講		○		○					
	色彩の科学		2	講		○		○					
	世界の教育		2	講		○		○					
	国際文化論		2	講	○		○						
	コミュニケーション論		2	講	○		○						
	世界の食と文化		2	講		○		○					
	博多の食と文化		1	講	○		○						
	中村学		1	講	○		○						
	教養講座（小論文）		1	演		○							
	教養講座（英語）		1	演	○								
	英語コミュニケーションB		1	演		○			1単位以上修得	1単位以上修得			
	英会話		1	演			○						
	海外研修		2	演	○								
保育基礎分野	教職入門	2		講	○					2	2		
	教育課程総論		2	講	○					2	2		
	保育原理A		2	講	○						2		
	教育原理	2		講	○					2	2		
	保育内容総論		1	演		○					1		
	幼児指導方法論	2		講		○				2			
	発達心理学A	2		講	○					ア	2		
	子ども家庭福祉	2		講	○						2		
	基礎器楽	1		演	○								
	基礎声楽	1		演	○								
	造形基礎		1	演	○						1		
	幼児と運動		1	演			○				1		
	国語表現法		2	講	○					イ			
	数学概論		2	講	○					イ			
	生活概論		2	講				○		イ			

○情報教育委員会細則

令和６年４月１日
制定

（設置）

第１条　中村学園大学及び中村学園大学短期大学部の情報教育及び教育の情報化について、教育内容や指導の充実、質の維持・向上を図ることを目的とし、審議するための委員会として、情報教育委員会（以下「委員会」という）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項について審議を行う。

(1)　情報教育及び教育の情報化における全学的な指針に関する事項

(2)　情報教育及び教育の情報化における環境整備に関する事項

(3)　情報教育及び教育の情報化における開講授業科目に関する事項

(4)　前号の教育における教員の配当に関する事項

(5)　情報教育及び教育の情報化におけるFDに関する事項

(6)　その他情報教育の編成・実施に関する事項

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

(1)　情報教育センター長

(2)　各学科から委員各１名

(3)　メディアセンター長

(4)　教務委員長

(5)　学術情報部から１名

(6)　教務部から１名

(7)　その他委員会が必要と認めた者

（任期）

第４条　前条第２号に該当する委員の任期は、２年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

２　委員は、再任されることがある。

（委員長）

第５条　委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は情報教育センター長をもって充て、副委員長は委員長が指名する。

（委員会の開催）

第６条　委員会は、必要に応じて開催するものとする。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

３　委員長に事故があるときは、副委員長が、その職務を代理する。

４　委員会は、構成員の過半数の出席によって成立する。

（委員以外の者の出席）

第７条　委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（事務）

第８条　委員会の事務は、教務部が行う。

（雑則）

第９条　この細則に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附　則

この細則は、令和６年４月１日から施行する。

○情報教育委員会細則

令和６年４月１日
制定

（設置）

第１条　中村学園大学及び中村学園大学短期大学部の情報教育及び教育の情報化について、教育内容や指導の充実、質の維持・向上を図ることを目的とし、審議するための委員会として、情報教育委員会（以下「委員会」という）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項について審議を行う。

(1)　情報教育及び教育の情報化における全学的な指針に関する事項

(2)　情報教育及び教育の情報化における環境整備に関する事項

(3)　情報教育及び教育の情報化における開講授業科目に関する事項

(4)　前号の教育における教員の配当に関する事項

(5)　情報教育及び教育の情報化におけるFDに関する事項

(6)　その他情報教育の編成・実施に関する事項

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

(1)　情報教育センター長

(2)　各学科から委員各１名

(3)　メディアセンター長

(4)　教務委員長

(5)　学術情報部から１名

(6)　教務部から１名

(7)　その他委員会が必要と認めた者

（任期）

第４条　前条第２号に該当する委員の任期は、２年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

２　委員は、再任されることがある。

（委員長）

第５条　委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は情報教育センター長をもって充て、副委員長は委員長が指名する。

（委員会の開催）

第６条　委員会は、必要に応じて開催するものとする。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

３　委員長に事故があるときは、副委員長が、その職務を代理する。

４　委員会は、構成員の過半数の出席によって成立する。

（委員以外の者の出席）

第７条　委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（事務）

第８条　委員会の事務は、教務部が行う。

（雑則）

第９条　この細則に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附　則

この細則は、令和６年４月１日から施行する。

大学等名	**中村学園大学短期大学部**	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	中村学園大学短期大学部 数理・データサイエンス・AI教育 リテラシーレベル プログラム	申請年度	令和６年度

＜プログラム概要＞

目　的

現代社会において、大量のデータ（ビッグデータ）の収集・蓄積・分析により、社会的問題の解決や新たな価値の創造が期待されている。そのため、数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能が重要と考えられており、文理を問わず、すべての大学が初級レベルの知識を習得できるようにすることが目標とされている。
これを受けて、本学ではデータサイエンスの基礎的な事項を修得することを目標に掲げる。

科目構成

選択科目「データサイエンス入門」（2単位）

修了要件

「データサイエンス入門」の1科目2単位を取得すること。

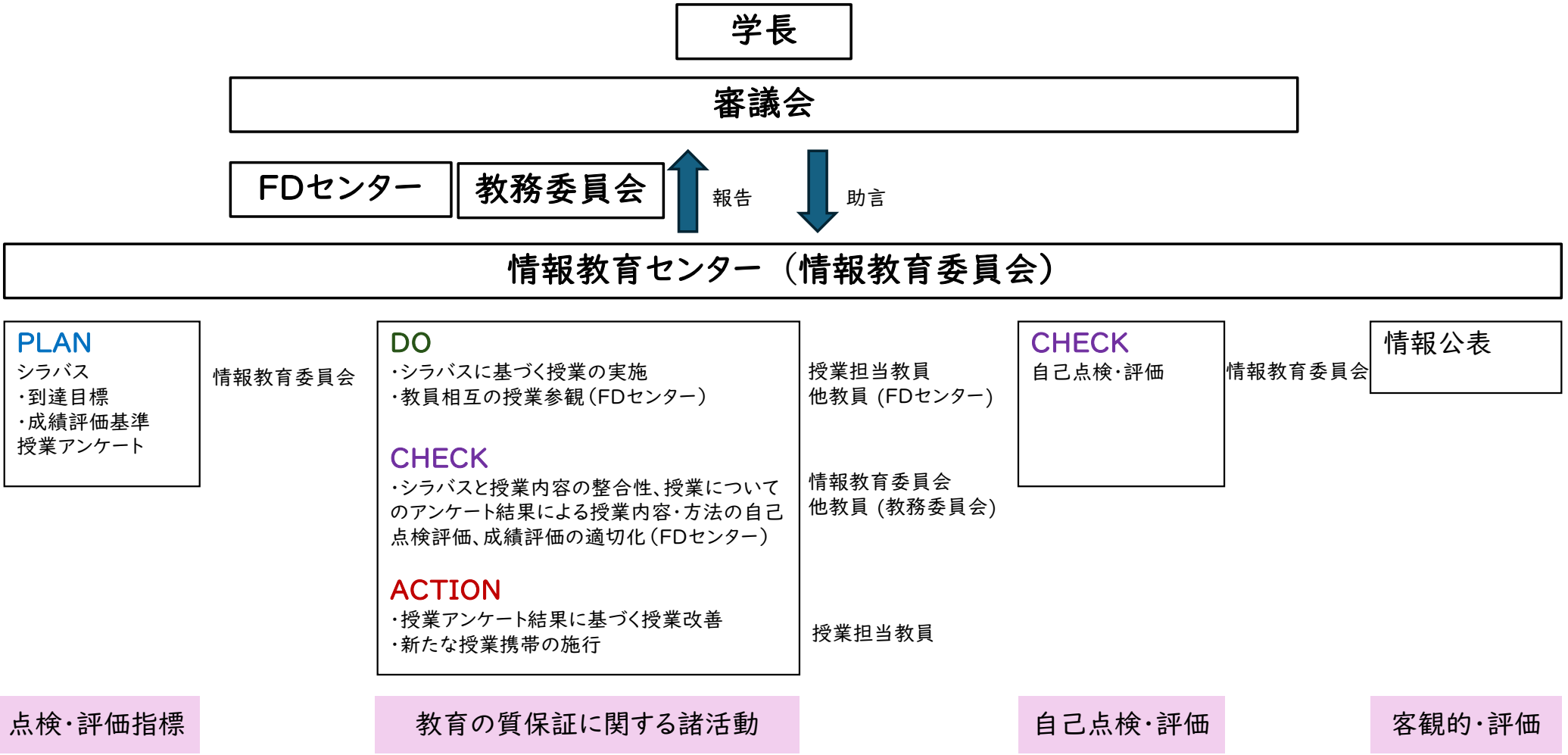
身に付けることができる能力

◆データサイエンスを学ぶ意義を説明できる。
◆データの表現方法と種類について説明できる。
◆身の回りのデータについて、グラフや表を利用して整理できる。
◆身の回りのデータについて、特徴を表現し説明できる。
◆データを取り扱う上での留意点について説明できる。

実施体制

委員会等	役割
情報教育センター長	プログラムの運営責任者
情報教育委員会	プログラムの改善・進化・自己点検・評価

中村学園大学短期大学部「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」実施体制



© 2024 Nakamura Gakuen